

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還協定批准書交換式

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43575

安保条約
。岸並声明(昭53)の

(自動送信) 政府声明(昭44)

主
題
目
に
よ
り
書
か
れ
て
あ
る
こ
と
は
、
そ
れ
ぞ
れ
の
内
容
を
記
す
。

○(自動送信) 政府の声明(通告)

○(注)昭和25年の署名時
には、捺印せられ。

(812)

岸首相声明

昭和五年六月三日(毎日新聞)

新日米安全保障約は本日、批准書交換を了り、ニニに効力を発生した。私は責任ある政府首班として今日までせりきよほへんと頗みす。一身を投げうつてひたすら國の光榮と國民の幸福との微力を傾げて来た。とくに新条約の締結は旧条約の不平等性を是正し、日米両国対等の立場に立て世界の平和と我が國の安全を確保し、民生の發展に寄与すること大なるものであるニシテ確信し、今日まで努力を続けて来た。私は感謝する國民とともに深く新条約の成立を喜ぶ。

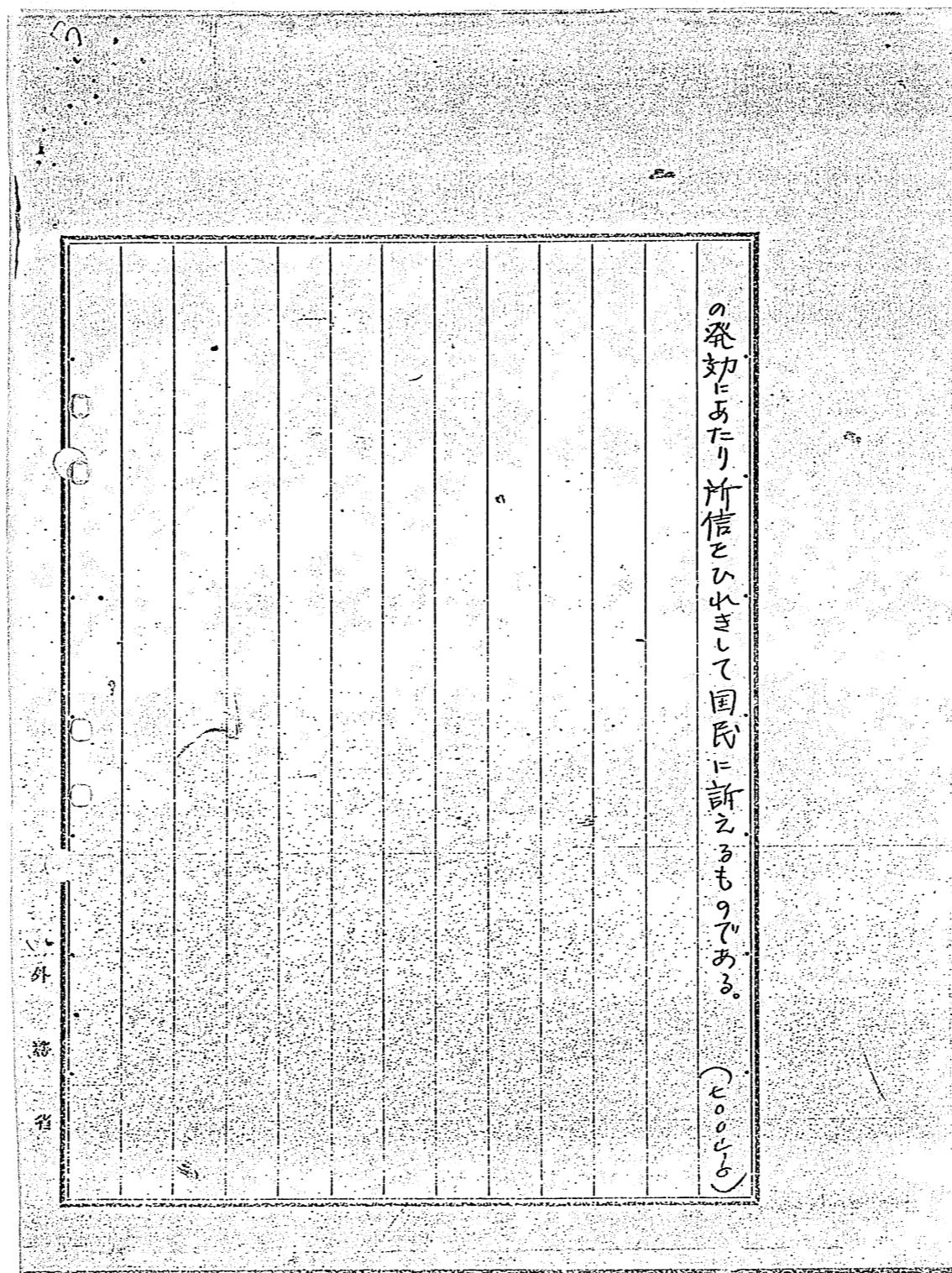
ニニに私は二の歴史的意義ある新条約の發効に際し、人心と一新し國の大勢に適応する新政策を強力に推進するため、

外
務
省

政局騒擾の事あるニシテ痛感し、首相を辭するニシテ決意した。

終戦以来我が国は國内外を向かず幾多困難な試練を経て今日の發展を見、國際信甲も高まってきた。吾は國民諸君が民主主義と民族の理想にて日本再建つたれ、たゆまざる努力をいたしたとほがなりばい。しかるに之が集団的暴力により、国会の内外に秩序を乱すにいたつたことは私としてもまことに遺憾に思ふ。ニシテ國会政治を破壊するかごとき行動をなすものが現い、國の運営を乱すにいたつたことは私としてもまことに遺憾に思ふ。我が國の國際信譽の築立に貢献する今日、暴力を排除し、秩序を守り、國際信用を回復するニシテが國の當面する急務である。ニシテ我が國の前途に於ける正しい認識と奮起を期待してやまない。山川もまた過去のゆきかたりと一掃し、派閥を解消して眞に脊髄一致の体制を整え、國民の期待にそろべべきである。ニニに新安全保障條約

外
務
省



政 府 声 明

(昭和四十五年六月二十二日)

政府は、日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約が十年の固定期間を終えるにあたり、引き続きこの条約を堅持することを明らかにするものである。

顧みれば、昭和二十七年、わが国は勇断をもつて多数講和の道を探るとともに、当時の不安定な極東情勢に対処して国の安全と復興を図るため、米国との間に安全保障条約を締結した。さらに、昭和三十五年、旧条約を是正し、日米両国対等の立場に立つて現行の条約を結んだのである。

今日、わが国が激動する国際社会の中にあって、平和を享受し、未曾有の経済的繁栄と国民生活の向上を見つつることは、かかる对外政策についての国民的選択が正しかつたことを立証するものであり、一九七〇年代を迎えてこの政策を堅持して行くことは、広範な国民的支持を得るものと確信する。

もとより、自らの国を自らの手で守る気概を持つことこそ国の安全を維持する基本的な条件である。しかし、今日の国際社会においては、いかなる国といえども単独でその安全を保持することはできない。國力国情にふさわしい自衛力を整備し、米国との安全保障体制によつてわが国を含む極東の平和と安全を確保することが、自らの存立と発展を図るために最も賢明な道であると信ずるものである。政府は、きびしい現実を直視し、時代の推移に即応しつつ、国際緊張の緩和と恒久平和の確立のため全力を傾ける決意である。

国民各位の一層のご理解とご協力を切望する次第である。

Statement

June 22, 1970

At the lapse of the initial period of ten years of the Treaty of Mutual Cooperation and Security between Japan and the United States of America, the Government confirms its intention to firmly maintain the Treaty in the interest of the maintenance of the security of Japan.

Back in 1952, our country chose resolutely to conclude the Peace Treaty with the majority of the Allied Powers, and at the same time concluded the Security Treaty with the United States in order to ensure our national security and reconstruction under the precarious situation then prevailing in the Far East. Subsequently, we concluded with the United States in 1960 the present Treaty of Mutual Cooperation and Security, by revising the former Security Treaty and placing the Japanese-American relationship on the basis of equal partnership.

That the nation has enjoyed peace in the turbulence of the world today and that it has achieved an unprecedented economic prosperity and improvement in the people's living bear out the wisdom of the national choice thus made on the course of external policy. The Government is convinced that unswerving pursuit of this policy in the 1970's is supported extensively by the people.

The will and spirit of the people to defend their homeland is the basic foundation of national security. However, no nation in today's world can expect to maintain its security by itself. The best conceivable way to secure national existence and development, it is believed, is to build up our self-defense power in consonance with national capabilities, and to ensure the peace and security of the Far East including Japan by the Japanese-American security system.

The

- 2 -

The Government is determined to make every effort, with correct appraisal of hard realities and with vigilance on the evolution of the times, toward the relaxation of international tension and the establishment of permanent peace.

The Government calls upon the nation for further understanding and cooperation.

